

筑志会の春の散策が、4月10日（木）に久々行われた。
コースは清澄庭園と近くの深川江戸資料館、1時半から昼食を兼ねての懇親会。

体調不良等々で直前の不参加が出たが、14名の参加となった。
雨も心配されたが、時折お日様も出て行程すべてで天気恵まれて、楽しい散策となった。
膝の手術明けの者もいて、皆で「ゆっくり歩こう！」と言っていたが、そのせいだけではなく、
以前の散策時に比べ、全員の歩きがかなり「ゆっくり」となった印象が強かった。
やはり、歳相応と言う事か、、、よかよか！
それでは、写真を交えて、少し長くなるが、順を追って報告しよう。

清澄庭園

一説には豪商 紀伊国屋文左衛門の屋敷跡と伝えられている。享保年間（1716－1735）に
下総国、関宿藩主 久世大和守の下屋敷となり、庭園のもとが形造られた。
明治11（1878）年、かの岩崎彌太郎がこの邸地を含む3万坪を取得し、三菱社員の慰安や、
貴賓を招待する場所として造園し、明治13（1880）年に「深川新牧園」を開いた。
その後、隅田川の水を引き大泉水を作り、築山（大きなものは富士山を模して）や各地
から名石を集め配し、「回遊式林和泉庭園」となった。
関東大震災の翌年大正13（1924）に、被害の少なかった東半分が岩崎家から東京市に
「寄付」され清澄庭園となった。大震災の時や、昭和20（1945）年の東京大空襲の時、
これらの場所が避難場所として多くの命を救ったそうである。



我々はこの庭園を左回りで廻った。写真で見よう。
パノラマではないが、雰囲気は伝わるだろう。





水面には水鳥も多く（なんの鳥かは分からず、、笑）、
 ちょっとの覗くと「亀、スッポン」が多く居た。



皆さん、「バラバラに、それぞれの歩き方で」、草花を愛でたり、
 石を鑑賞したり、桜を楽しんだり、説明書きを読んだり、
 散策を大いに楽しんだ。





こういう石の上を歩くことが多く、年寄りには難しそうだったが、皆ケガも無く散策を楽しんだ。



1時間あまり、ゆっくりと散策。出口の「大正館」の前で、集合写真。
通りがかりの外国人にシャッターをお願いした！！



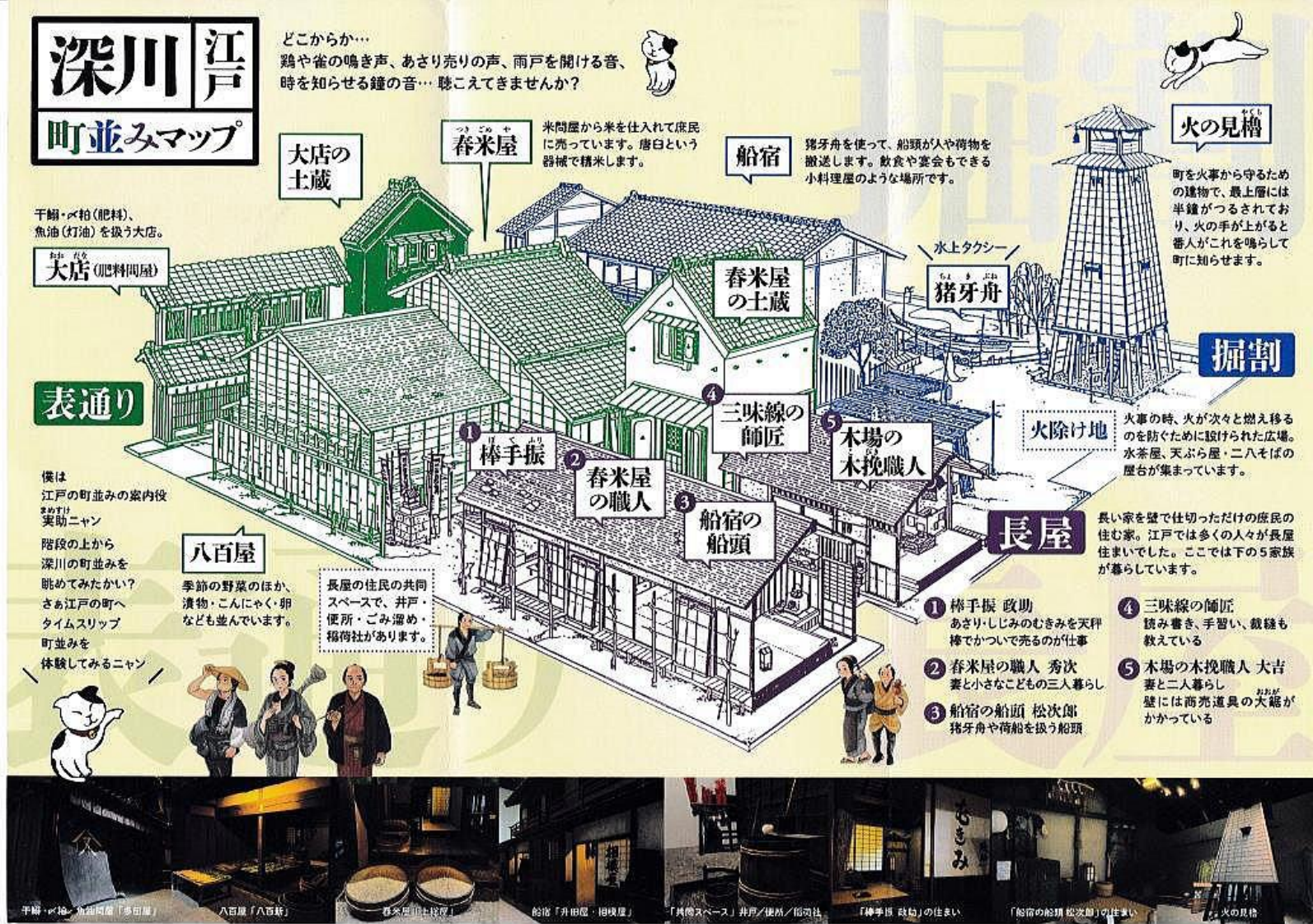
結構な距離を歩いただろうが、歳なりのゆっくりとした歩きで、問題無く皆楽しんだ！

さて、ここから歩いて5分くらいのところにある、深川江戸資料館に向かう

深川江戸資料館



ここは、江戸時代末期（天保年間）の深川佐賀町の町並みを資料に基づき実物大で再現している。



一日の移り変わりを光と音で演出して、季節によっては展示物を変えている。ラッキーな事に、ボランティアの説明員が付いてくれて、説明を受けながら見学した。ボランティアなのに、色々資料を見せながら、専門の知識もあり、余談も含め、色々勉強になった。



奥に火の見やぐらが見える
この時代の火消し（消防）水をかけて火を消すより、火の回りの家を壊して、延焼を防ぐのが役目だったらしい。



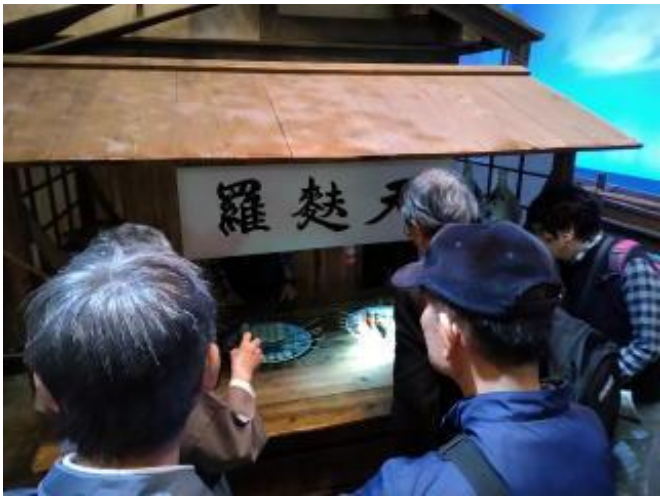
町並みには八百屋（説明員は、「最近の若者は八百屋という言葉を知らないんです、、、」と言っていた）、油屋、米や、船宿など、家の中まで上がって見学できる。



当時の住まいは、広くて6畳、狭くて4.5畳で、畳や入り口の「表札」入りの建戸は自分持ちで、引っ越しの時は、それらを引っ越し先へ持って行くのが普通だったらしい。畳と玄関を持ち歩く「引っ越し」貧しくて畳が持てない者は、むしろを敷いて生活していた。



担いで売り歩く屋台、稲荷寿司屋、そば屋、天ぷら屋等が並び、天ぷらは海鮮ものが主流だった。蕎麦は二八蕎麦！。



八百屋



米屋（奥が脱穀機）





手前が井戸、奥左がゴミ捨て場
 右が共同便所。
 この辺りは、海に近く井戸水も飲用
 には使えず遠くの多摩浄水からの水を
 亀に入れて売りに来ていたらしい。



便所の扉が下半分だけ。
 因みに中国の昔の（今でも地方
 では有る）便所は扉が上半分だけで
 下半分は見える。
 ところ変われば、風俗・習慣も変わる！



昔の日本手ぬぐい売り。よく見て！（写真がボケて見えにくいかな）
 「玉」と言う字の周りに、縦3本線。横6本線、、
 坂東 玉 三 郎、、分かるかな？ 江戸庶民は粋だね！！



昔こんな人一人が
 通れる路地があったね！
 本当は道幅はこれの3倍くらい
 あったようだ。

時間が少し余った分、それぞれが見たいところを見て、約束の時間に
 出口集合。そこから5分くらいの est tokyo uno et001 にて
 2800円のワイン付きイタリアン・ランチで乾杯！
 貸し切り状態だったので、美味しいイタリアンと追加のワイン、ビール
 などで話は弾んだ！！九州の話題を話していると、マスターが乗って
 来たので、聞くと何と鹿児島島の出身だった。
 縁は奇なもの、そうは言わないんだっけ？？？



心配された雨も降らず、(家に帰ったら雨だった!!)、
ゆったりとした散策イベントだった。
誰ともなく、これくらいの歩く距離と、時間が良いね、、
またどこか行こう!!
そう、無理をせず、歳は老いても、気持ちだけは
若いぬようにしよう、としみじみ思った散策だった。